

第4章 県の地理的、社会的特徴

県は、国民保護措置を適切に実施するため、その地理的、社会的特徴等について把握することとし、以下のとおり、国民保護措置の実施に当たり考慮しておくべき県の地理的、社会的特徴について定める。

1 地 形

(危機管理・消防防災課)

【図1-1 長崎県の位置】

本県は、九州の西北部に位置し、東西213km、南北307kmにおよぶ県域であり、佐賀県と陸接しているほか、有明海を隔てて熊本県、福岡県と相接している。

東は島原半島が突出し、南は長崎半島が天草灘に望み、西海上には五島列島が、西北海上には壱岐、対馬があり、朝鮮海峡のかなたに韓国を望んでいる。

県域の15分の1ほどを占める陸地は、平坦地に乏しく、いたるところに山岳、丘陵が起伏し、海岸線は多くの半島、岬と湾、入江から形成されており、海岸線の延長は北海道につき全国第二位の長さを示している。



【表1-1 極地の経緯度】

方 位	地 名	極限経緯度
東 端	島原市九十九島	東経130° 23′
西 端	五島市鳥島	東経128° 06′
南 端	五島市女島	北緯31° 59′
北 端	対馬市上対馬町北ノ手	北緯34° 43′

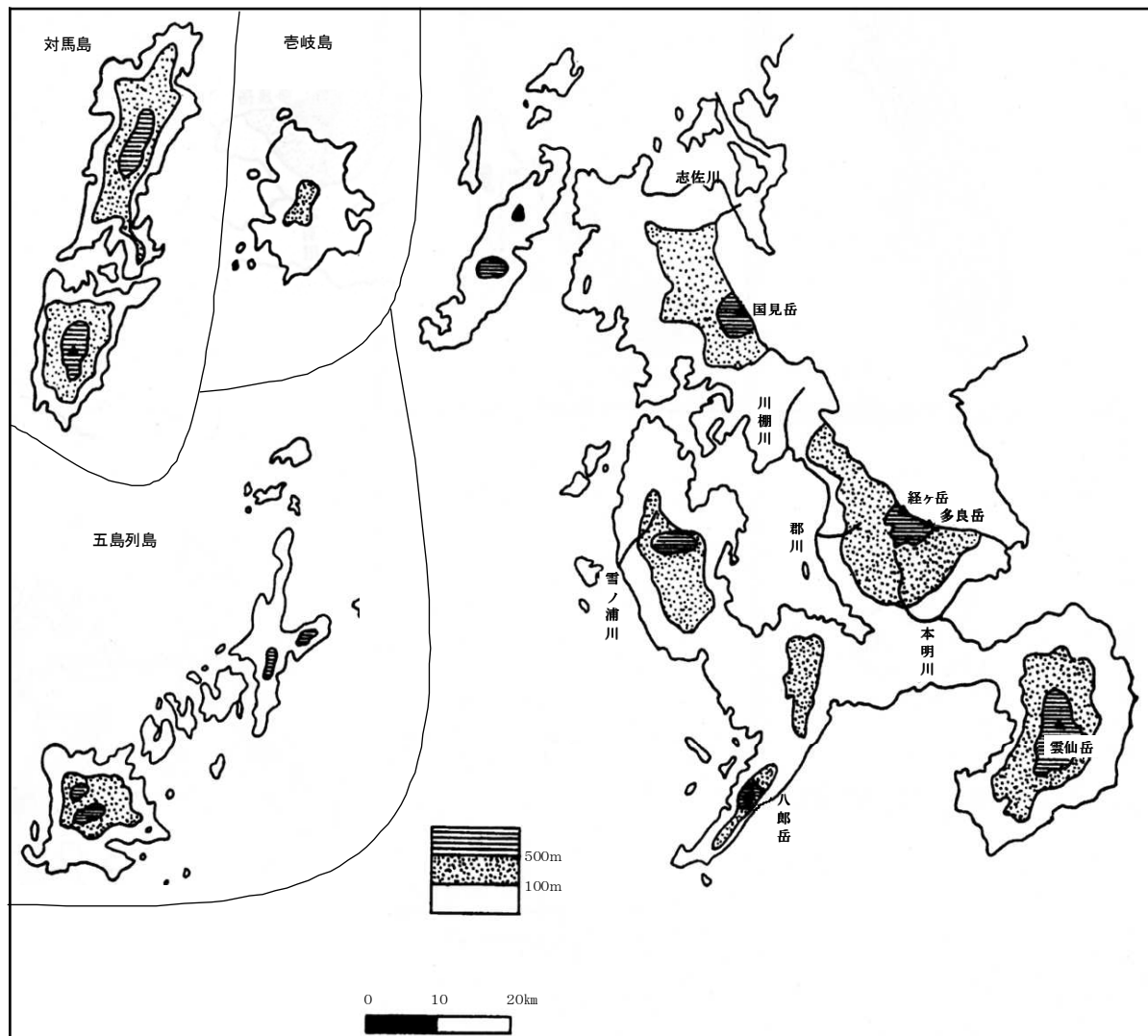
【表1-2 市郡別面積】

平成15年10月現在

	面積 (km ²)		面積 (km ²)
長崎市	338.72	壱岐市	138.45
佐世保市	307.52	五島市	420.61
島原市	59.27	西海市	241.91
諫早市	312.17	西彼杵郡(3町)	117.04
大村市	126.33	東彼杵郡(3町)	167.46
平戸市	168.78	南高来郡(16町)	400.18
松浦市	95.75	北松浦郡(10町1村)	277.42
対馬市	708.63	南松浦郡(1町)	213.8
		総面積	4,094.04

主要山岳には普賢岳、多良岳、経ヶ岳、国見岳、妙見岳、五ヶ原岳等があり、河川は各市郡ともすべて海に面しているので大きなものはなく、本明川、佐々川、川棚川、相浦川などが主なものである。

【図1-2 長崎県の地勢】



資料：長崎県地域防災計画 基本計画編（長崎県防災会議）

また、本県は全国一の離島県であり、大きく分けて、対馬島地域、壱岐島地域、五島列島地域、平戸諸島地域、西彼諸島地域の5地域に区分される。また、離島振興法指定の有人島は55島（総有人島数は74島）であり、県の総面積の38.3%(44.5%)を占めている。

【表1-3 長崎県の有人島】

地域名	有人島	面積(k㎡)	人口(人)	世帯数	市町村
計 55島(74島)		1,568.19 (1,823.16)	171,885 (225,811)	(84,017)	8市4町1村 (9市9町1村)
対馬島地域 6島(6島)	つしまじま うにじま とまりしま 対馬島、海栗島、泊島、 あかしま おきのしま しまやまじま 赤島、沖ノ島、島山島	704.52 (704.52)	41,230 (41,230)	15,038 (15,038)	対馬市
壱岐島地域 6島(6島)	いきのしま わかみやじま つまがしま 壱岐島、若宮島、妻ヶ島、 はるしま ながしま おおしま 原島、長島、大島	136.59 (136.59)	33,538 (33,538)	10,661 (10,661)	壱岐市
五島列島地域 18島(18島)	なかどおりじま かしらがしま 中通島、頭ヶ島、 わかまつじま きりのこじま ひのしま 若松島、桐ノ小島、日島、 ありふくじま りょうぜがうらしま 有福島、漁生浦島、 なるしま まえしま ひさかじま 奈留島、前島、久賀島、 わらびこじま かばしま あかしま 蕨小島、椀島、赤島、 おうしま ふくえじま くるしま 黄島、福江島、黒島、 しまやまじま さがのしま 島山島、嵯峨島	614.50 (614.50)	76,092 (76,092)	30,765 (30,765)	五島市 新上五島町
平戸諸島地域 18島(25島)	ふくしま たかしま くるしま (福島)、鷹島、黒島、 あおしま とびしま おおしま たくしま 青島、飛島、大島、度島、 ひらどじま たかしま いきつきじま (平戸島)、高島、(生月島)、 まえじま とうどまりじま (前島)、(とう泊島)、 うくじま てらしま おちかじま 宇久島、寺島、小値賀島、 むしま のぎきじま のうしま くるしま 六島、野崎島、納島、黒島、 おおしま まだらしま たかしま くるしま 大島、斑島、高島、黒島、 はりおじま おおしま (針尾島)、(大島)	93.59 (324.83)	14,924 (59,030)	(20,031)	佐世保市 平戸市 松浦市 大島村 (生月町) 小値賀町 宇久町 (福島町) 鷹島町 (小佐々町)
西彼諸島地域 7島(19島)	まきしま いおうじま おきのしま (牧島)、伊王島、沖之島、 たかしま いけしま かばしま 高島、池島、(樺島)、 かしま たけのしま まえのしま (鹿島)、(竹ノ島)、(前ノ島)、 なぐしじま おおしま てらしま (南串島)、(大島)、(寺島)、 かきのうらしま さきとじま (蛸浦島)、(崎戸島)、 えのしま ひらしま まつしま まえじま 江島、平島、松島、(前島)、 うせじま (鵜瀬島)	18.99 (42.72)	6,101 (15,921)	(7,522)	長崎市 (諫早市) 西海市 (時津町) (琴海町)

※面積は平成15年全国都道府県市区町村別面積調べ(但し、1平方キロメートル以下の島については市町村調べ
[平成15年10月1日現在])、人口は平成12年度国勢調査による

※()書きの有人島名および市町村名は離島振興法適用外のもので、()書きの数値は有人島全体のもの。

2 気 候

(危機管理・消防防災課)

長崎県本土及び五島地方は、平年の年平均気温が16～17℃、年降水量が2,000ミリ前後（山岳地である雲仙岳を除く）であり、壱岐・対馬地方は年平均気温が15～16℃で長崎県本土及び五島地方に比べやや低い。また、本県は海岸線が複雑でその延長が長く、海流の影響もあり、九州北部の他県に比べ、夏期の最高気温はやや低く、冬期の最低気温はやや高い傾向がある。

6～7月の梅雨の頃、梅雨前線がしばしば活性化し、全県的な大雨または局地的豪雨が、8～9月にかけては台風の接近または上陸により暴風雨、豪雨に見舞われることがある。

また、7月～10月は台風、11月～3月は冬型の強い季節風による高波が発生しやすく、船舶の航行に影響がでることも多い。

3 人口分布等

(危機管理・消防防災課、統計課)

長崎県の推計人口（平成17年4月末現在）は、1,485,665人、うち男696,270人、女789,395人、世帯数は563,824世帯である。

外国人登録人口について、平成15年12月末現在で7,102人となっている。

年齢構成（平成15年）では、男女とも50～54歳を頂点とした釣り鐘型を呈しており、0～4歳の推計人口は68,490人と、50～54歳の推計人口（124,468人）の約半数となっている。

【表3-1 県内の世帯数・人口】

平成17年4月末現在

	世帯数	推計人口		世帯数	推計人口
長崎市	182,699	444,685	壱岐市	10,777	31,783
佐世保市	98,247	248,847	五島市	20,293	45,265
島原市	14,083	38,609	西海市	12,409	33,949
諫早市	50,456	144,609	西彼杵郡(3町)	29,039	83,957
大村市	32,379	88,047	東彼杵郡(3町)	12,630	40,052
平戸市	8,014	22,394	南高来郡(16町)	37,060	116,529
松浦市	7,459	21,175	北松浦郡(10町1村)	22,293	61,394
対馬市	15,324	39,031	南松浦郡(1町)	10,662	25,339
			合 計	563,824	1,485,665

4 道路の位置等

(道路維持課、道路建設課)

県内の道路は、一般国道が17路線、主要地方道53路線、一般県道118路線、市町村道32,792路線、計32,982路線となっている。

【表4-1 県内の道路の状況】

平成16年4月1日現在

道路種別	路線数	実延長 (m)	道路延長 (m)	橋梁 (箇所)	トンネル (箇所)
高規格幹線道路	2	57,056.0	42,147.0	56	7
一般国道	17	931,519.6	876,029.9	712	68
県道	171	1,667,886.4	1,630,186.4	907	56
主要地方道	53	828,697.9	802,950.3	484	40
一般県道	118	839,188.5	827,236.1	423	18
市町村道	32,792	15,144,900.0	15,065,313.0	7,505	43
幹線1級	954	1,975,471.0	1,957,559.0	1,136	16
幹線2級	1,174	1,784,785.0	1,774,669.0	943	3
その他	30,664	11,384,644.0	11,333,085.0	5,426	24
合計	32,982	17,801,362.0	17,613,676.3	9,180	174

資料：道路現況表（道路建設課）

【図4-1 県内の道路網図（国県道）】



資料編の掲載ページ ○ページ ~ ○ページ

5 鉄道、空港、港湾の位置等

(危機管理・消防防災課、交通政策課、港湾課)

(1) 鉄道

本県に路線を有するJR九州、島原鉄道、松浦鉄道の3事業者が基幹的な鉄道輸送機関となっている。

① JR九州

本県では長崎本線、佐世保線、大村線の3路線を営業している。

長崎本線は、鳥栖駅（佐賀県鳥栖市）から長崎駅に至る路線で、鳥栖～肥前山口～諫早～喜々津～市布～浦上～長崎間（市布経由）125.3kmと、長与経由の喜々津～浦上間（旧線）23.5km計39駅からなり、博多～長崎間には特急「かもめ」が運行されている。

佐世保線は、肥前山口駅（佐賀県杵島郡江北町）から佐世保駅に至る路線で、肥前山口～武雄～早岐～佐世保間48.8km計13駅からなり、博多～佐世保間の特急「みどり」、博多～ハウステンボス間の特急「ハウステンボス」が運行されている。

大村線は、大村湾沿いに早岐駅（佐世保市）から諫早駅に至る47.6km計11駅の路線で、長崎、佐世保を結ぶ路線となっている。博多～ハウステンボス間に特急「ハウステンボス」が運行されているほか、都市間連絡列車として佐世保～長崎間に快速「シーサイドライナー」が運行されている。

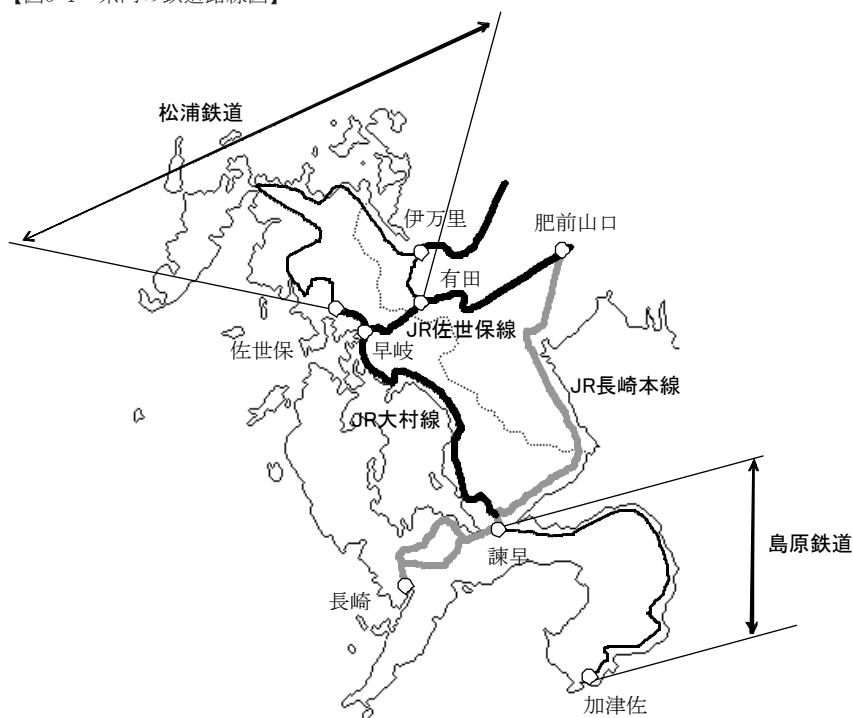
② 島原鉄道

JR九州諫早駅を起点として加津佐駅まで78.5km計44駅を結ぶ島原半島を約2/3周する地方鉄道（私鉄）であり、半島住民の足として地域に密着した長い歴史を持っている。

③ 松浦鉄道

旧国鉄の地方交通線から転換した、第3セクター方式の鉄道会社で、佐世保駅から有田駅（佐賀県有田町）まで93.8km計57駅の区間を北松浦半島沿いに結ぶ、地域に密着した公共交通機関として重要な役割を果たしている。

【図5-1 県内の鉄道路線図】



【表5-1 県内の鉄道輸送実績】 平成15年

	乗車人員 (人)		降車人員 (人)
	普通	定期	
J R九州	6,684,267	7,927,503	14,617,086
島原鉄道	896,996	1,390,560	2,287,556
松浦鉄道	1,041,688	1,639,692	2,690,362

資料：「長崎県勢要覧」鉄道各社調

(2) バス

バスは、通勤、通学、観光客の足として、また、鉄道駅、空港等との主要なアクセス手段として、果たす役割は大きく、特に、高齢化が進み全国で最も離島が多い本県では、地域住民の生活を支える重要な交通手段である。

平成17年4月末現在、県内に本社を置く乗合バス事業者は13社で、このうち我が国で唯一の県営バスを含めて公営企業が3社、民間企業が10社あり、また8社が本土地域、5社が離島地域の事業者となっている。

【表5-2 県内の乗合自動車輸送実績】 平成15年

	走行キロ (km)	輸送人員 (人)	
			うち定期
乗合	73,836,306	95,903,715	30,489,075
貸切	14,931,013	2,467,521	—
計	88,767,319	98,371,236	30,489,075

資料：「長崎県勢要覧」長崎県バス協会調

(3) 空港および航空旅客輸送

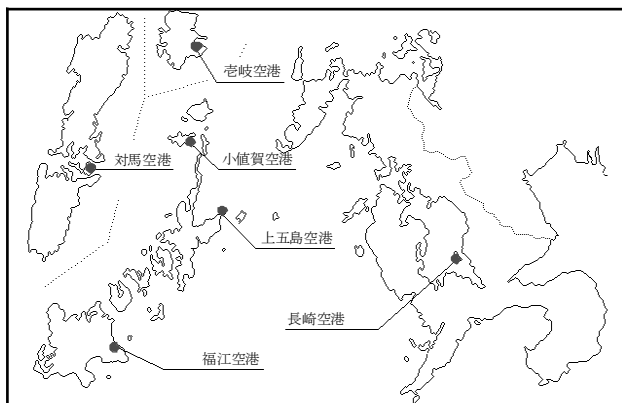
本県には長崎空港、福江空港、壱岐空港、対馬空港、上五島空港、小値賀空港の6空港があり、全国の主要都市を始め本土と離島とを結ぶ航空網を形成している。

長崎空港は本県の空の玄関として、国内線は東京、大阪（伊丹）、沖縄など11路線37便、国際線は中国の上海、韓国のソウル（仁川）線の2路線週4便となっている。

利用者数は平成16年実績で国内線2,587千人、国際線（チャーター便含）61千人である。

また、離島の空港は長崎空港、福岡空港と結ばれており、平成16年の利用者数は約530千人で、生活路線としての役割を果たしている。

【図5-2 長崎県 空港位置図】



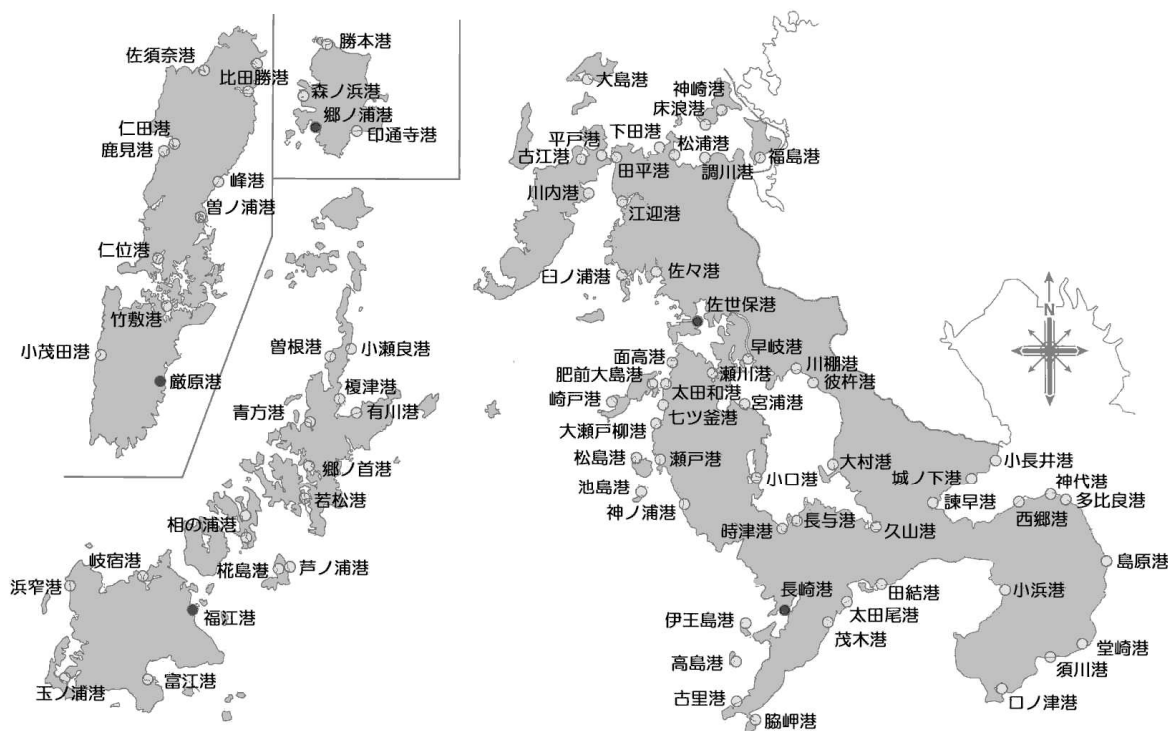
(4) 港湾および旅客輸送

本県は地形などの地理的な自然条件から4,200kmの長大な海岸線に83の港湾が点在しており、その数は全国の7.4%を占める。内訳を見ると重要港湾が5港（うち離島3港）、地方港湾が78港（うち離島33港）となっており、56条港湾の22港（うち離島10港）、漁港（水産庁所管）の286港すべてを合わせると391の港がある。これは、海岸線のほぼ10kmに1つの割合で港が存在する計算で県民と港のかかわりの大きさがうかがえるものであり、特に離島住民に対する交通の要として、港湾が大きな役割を果たしている。

佐世保港が佐世保市の管理となっている他は、全港長崎県が管理者となっている。

【図5-3 長崎県港湾位置図】

平成17年4月現在



資料：港湾課

全国屈指の離島県である本県における定期航路数は平成17年4月現在52航路あり、このうち離島定期航路数は44航路で全国一の航路数である。

近年、超高速船の導入が進んでおり、長崎～五島間、博多～壱岐間、博多～対馬間にジェットフォイルが就航したり、バリアフリー化したフェリーが導入されるなど利便性の向上が図られている。

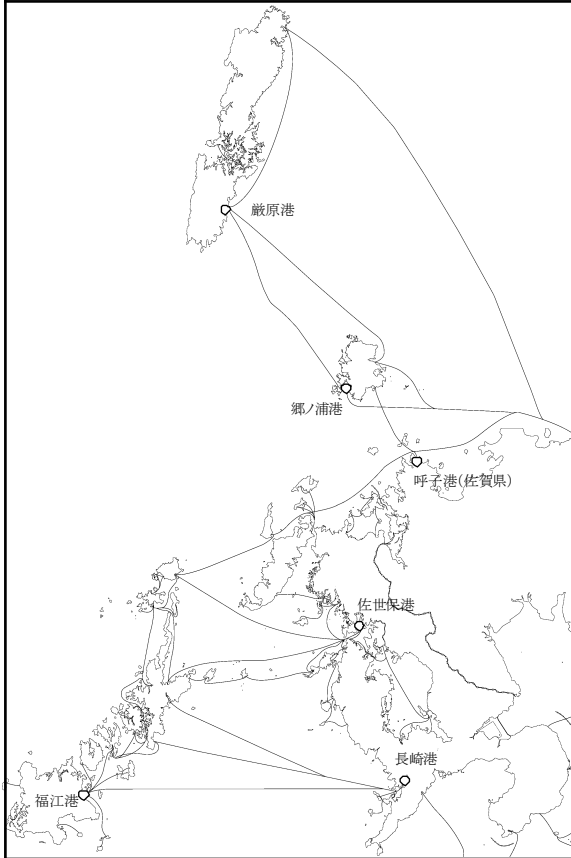
【表5-3 県内の定期航路の輸送実績】 平成16年

	旅客数 (千人)	車両数 (千台)
離島航路	4,877	550
本土間航路	2,245	687
計	7,122	1,237

※平戸、福島、天草の航路を離島航路に含む。

資料：県交通政策課調

【図5-4 長崎県の航路図】



資料編の掲載ページ ○ページ ~ ○ページ

(5) 貨物輸送

県内の貨物自動車運送事業の状況（平成16年3月末現在）は、一般貨物自動車運送事業（霊柩運送を除く）では、555事業者（県内事業者490事業者、県外事業者65事業者）で保有車両は9,486台、特定貨物自動車運送事業は、13事業者（県内事業者9事業者、県外事業者4事業者）で保有車両は78台、貨物軽自動車運送事業は、2,284事業者で保有車両は2,846台となっている。

海運業の状況（平成16年3月末現在）は、内航運送業者（内航船舶貸渡業を除く）が48事業者、保有隻数69隻、総トン数31,866総トンとなっている。

また、鉄道貨物についてはJR貨物九州支社の取扱いがある。

【表5-4 長崎県発着貨物流動表】 平成13年

	発送 (t)	到着 (t)
鉄 道	29	51
海 運	11,020	11,914
自動車	57,961	42,267
航 空	15	5
計	69,025	54,237

資料：「管内概要」九州運輸局 長崎運輸支局

6 自衛隊施設等

(危機管理・消防防災課)

(1) 米海軍佐世保基地

佐世保港を中心に位置し、約4.59 k m² (佐世保市域内面積3.97 k m² : 占有率 1.60%) の敷地にメインベース・赤崎貯油所・庵崎貯油所・横瀬貯油所・前畑弾薬庫・針尾弾薬庫・針尾住宅等があり、基地内では約1,500名の日本人従業員が働いている。

【図6-1 米海軍基地の所在図】



(2) 自衛隊基地

佐世保市に海上自衛隊の拠点の1つである佐世保地方総監部があるほか、大村市に陸上自衛隊駐屯地・海上自衛隊航空基地がある。また、離島地区においても五島市、対馬市、壱岐市に配備されている。

【表6-1 県内所在の自衛隊の部隊】

平成17年5月末現在

	駐屯地・地区	主要部隊名
陸 上	相浦駐屯地	第3教育団、西方普通科連隊
	大村駐屯地	第16普通科連隊、第4施設大隊
	竹松駐屯地	第7高射特科群
	対馬駐屯地	対馬警備隊
海 上	佐世保地区	佐世保地方総監部、第2護衛隊群
	大村航空基地	第22航空群
	壱岐地区	壱岐警備所
	対馬地区	対馬防備隊本部、上対馬警備所、下対馬警備所
航 空	福江島分屯基地	第15警戒隊
	海栗島分屯基地	第19警戒隊
その他	長崎地方連絡部	長崎地方連絡部

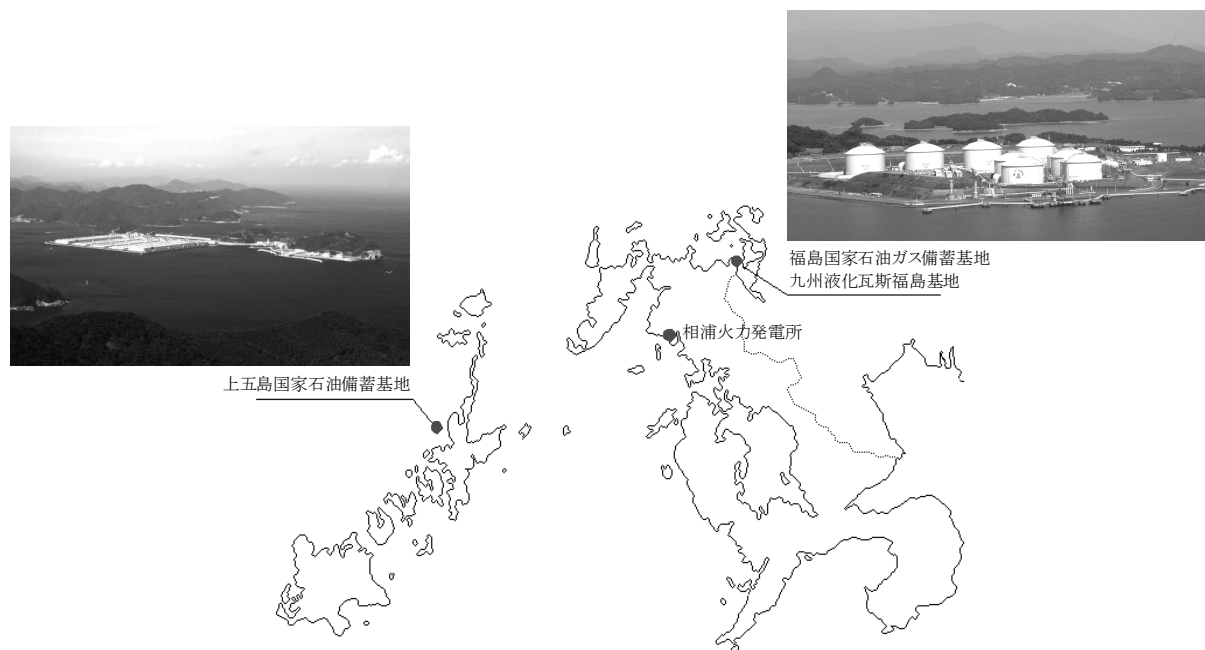
7 石油コンビナート等

(危機管理・消防防災課、商工労働政策課)

石油コンビナート等災害防止法に基づく石油コンビナート等特別防災区域は、相浦地区（佐世保市）と上五島地区（新上五島町）が指定されており、相浦地区には火力発電所が、上五島地区には国家石油備蓄基地が所在している。

また、現在、石油コンビナート等特別防災区域の指定はされていないが、福島町に民間石油ガス基地が所在しており、隣接して国家石油ガス備蓄基地が建設中である。

【図7-1 石油コンビナート等の所在図】



(1) 相浦地区

特別防災区域相浦地区は、九州電力株式会社相浦発電所の事業所敷地で、総面積227,519㎡、石油貯蔵取扱量183,600^{キロリットル}、高圧ガス処理量6,158^{立方メートル}である。

また、相浦発電所は、重原油火力として昭和48年に1号機（37.5万^{キロワット}）、昭和51年に2号機（50万^{キロワット}）が営業運転されており、2基合計で出力87.5万^{キロワット}の火力発電基地となっている。

(2) 上五島地区

特別防災区域上五島地区は、九州西方海上の五島列島の北端にある、中通島の新上五島町青方港西方海面いわゆる青方港と呼ばれる約3kmの湾内の折島及び柏島の内面に位置し、面積は陸域約26ヘクタール（特別防災区域指定部分）、海域約40ヘクタール（貯蔵船舶地）であり、原油備蓄量約440万^{キロリットル}を海域に長さ390m×幅97m×深さ27.6mの貯蔵船5隻により備蓄するものである。

(3) 福島町

福島町では、備蓄量16万トン、貯蔵タンク4基（プロパン4万トン×2基、ブタン4万トン×2基）の規模を持つ民間備蓄の九州液化瓦斯福島基地が、昭和58年3月に操業開始

している。

また、現在建設中の福島国家石油ガス備蓄基地は、備蓄量20万トン、貯蔵タンク4基（プロパン5万トン×3基、ブタン5万トン×1基）の規模で、平成17年9月に完成を予定している。

8 原子力発電所

(危機管理・消防防災課)

佐賀県東松浦半島の西部の玄海町にある九州電力玄海原子力発電所は、昭和50年に1号機が営業運転され現在4号機まで建設されており、出力347万8千KWの九州最大の発電所であり、半径10km以内に鷹島町が位置している。

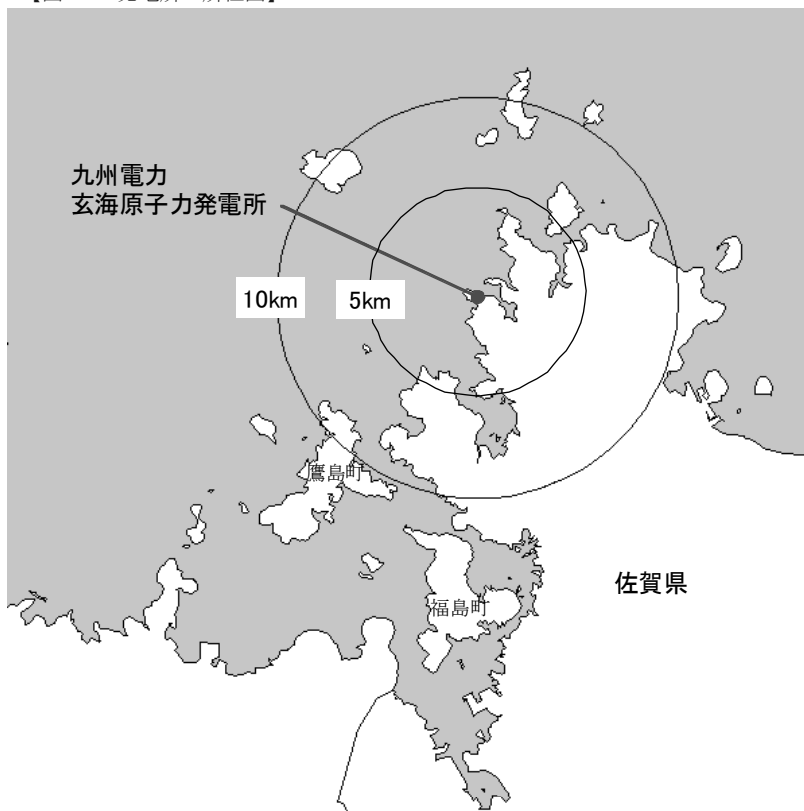
燃料は低濃縮（約4%）二酸化ウランであり、総装荷量は約274トンである。

【表8-1 玄海原子力発電所の概要】

	1号機	2号機	3号機	4号機
設置者	九州電力株式会社			
設置位置	佐賀県東松浦郡玄海町今村			
用途面積	約87万㎡			
電気出力	55万9千kw	55万9千kw	118万kw	118万kw
原子炉形式	軽水減速・軽水冷却加圧水型（PWR）			
原子炉熱出力	165万kw	165万kw	342万3千kw	342万3千kw
燃料種別	低濃縮（約3～4%）二酸化ウラン			
燃料装荷量	約48トン	約48トン	約89トン	約89トン
営業運転開始	昭和50年10月	昭和56年3月	平成6年3月	平成9年7月

資料：長崎県地域防災計画 原子力災害対策編（長崎県防災会議）

【図8-1 発電所の所在図】



9 観光

(観光課)

本県の平成15年の観光統計によれば、観光客延べ数は、年間約3,000万人であり、うち宿泊客数は約1,200～1,300万人、日帰り客数は1,700～1,900万人で、観光客実数では年間約2,200～2,400万人、うち県外客は約1,300万人、県内客は650～750万人、地元客は240～300万人で推移している。

また、観光客延べ数では、佐世保市、長崎市、小浜町、平戸市などの順で多く、主要観光施設の利用者の傾向としては、おおよそ5月、8月、10月頃に増加傾向が見られる。

外国人宿泊客数の実数についても約15～18万人で近年推移しており、うちアジア地域が大部分を占めるほか、北アメリカ地域、ヨーロッパ地域などの宿泊客もある。

資料編の掲載ページ

○ページ ～ ○ページ

10 水産業

(漁政課)

本県の漁業は、海洋環境の多様性により、多くの魚介類に恵まれていることから、内湾から沖合までその漁場環境を活かした多種多様な漁業が営まれている。

全国からみた本県の漁業の状況は、漁港の数では全国1位、漁船の数、海面漁業・養殖業生産額では北海道に次いで2位となっており、長崎、佐世保、松浦などの大きな港には、優れた施設を持つ魚市場があり、我が国を代表する水揚げ漁港となっている。

漁船数は、総数はおおよそ3万隻で5t未満の動力船が9割程度を占め、また大半が一本釣り漁船となっている。

資料編の掲載ページ

○ページ ～ ○ページ

第5章 県国民保護計画が対象とする事態

県国民保護計画においては、以下のとおり基本指針において想定されている武力攻撃事態及び緊急対処事態を対象とする。

1 武力攻撃事態

(危機管理・消防防災課)

県国民保護計画においては、武力攻撃事態として、以下に掲げる4類型を対象として想定している。

類 型	特 徴
着上陸侵攻	国民保護措置を実施すべき地域が広範囲、期間が比較的長期に及ぶことも想定
ゲリラや特殊部隊による攻撃	突発的に被害が発生することも考えられる
弾道ミサイル攻撃	発射された段階での攻撃目標の特定が極めて困難であり、短時間での着弾が予想される
航空攻撃	弾道ミサイル攻撃の場合に比べ時間的余裕があるものの、あらかじめ攻撃目標を特定することが困難

2 緊急対処事態

(危機管理・消防防災課)

県国民保護計画においては、緊急対処事態として、以下に掲げる事態例を対象として想定している。

類 型	事 態 例
危険性を内在する物質を有する施設等に対する攻撃が行われる事態	<ul style="list-style-type: none"> ・原子力事業所等の破壊 ・石油コンビナート・可燃性ガス貯蔵施設等の爆破 ・危険物積載船への攻撃 ・ダム等の破壊
多数の人が集合する施設、大量輸送機関等に対する攻撃が行われる事態	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模集客施設、ターミナル駅等の爆破 ・列車等の爆破
多数の人を殺傷する特性を有する物質等による攻撃が行われる事態	<ul style="list-style-type: none"> ・ダーティボム等の爆発による放射能の拡散 ・炭疽菌等生物剤の航空機等による大量散布 ・市街地等におけるサリン等化学剤の大量散布 ・水源地に対する毒素等の混入
破壊の手段として交通機関を用いた攻撃等が行われる事態	<ul style="list-style-type: none"> ・航空機等による多数の死傷者を伴う自爆テロ ・弾道ミサイル等の飛来

